

研修だより

帯広市立啓北小学校
NO.5 令和5年6月2日(金)
文責 木村
テーマ「提案授業を終えて」
授業者：4年1組 齊藤(真)先生

道徳：4年「目ざまし時計」(A 主として自分自身に関すること)

道徳部会では、5月16日(木)の5時間目に、齊藤(真)先生に授業を公開していただきました。今回は、「健全な生活態度」を主題とし、「目ざまし時計」の資料にて行いました。主人公が自分で決めたままりを徐々に守れなくなってしまうという内容でした。主人公と似たような経験を自分の生活と照らし合わせることで、規則正しい生活の良さや必要性についてたくさんの考えがでました。事前アンケートの活用やインタビューを取り入れて、子どもたちの本音を引き出す授業となりました。また、どの考えも受容しながら進めており、子どもたちが安心して自分の考えを表現できるクラスの雰囲気伝わってきました。

研究の柱Ⅰ 見通しと振り返りの工夫

【内容①-1 「つかむ」場面の工夫 ～事前アンケートの活用～】



「つかむ」の部分では、事前にアンケートを行うことで、児童の身近なところに主題があることに気付かせ、問題意識をもって資料を読みすすめることができました。

【事後研より】

◇事前のアンケート結果の活用

- ・興味・関心をもつことが出来る手立てになった。
- ・主題を身近なものだと感じることができた(結果の視覚化など)。
- ・自分と友達の考えを比べることができた。

【内容①-2 振り返り工夫 ～アンケート結果の数値化、つかむ場面との一貫性～】

「つながる」部分では、アンケート結果の数値を可視化することで、登場人物と自分の行動を関連づけながら、主題について考えを深めることができました。

【事後研より】

- ・数値化することで、後半にまた自分の生活に戻って考えることができた。
- ・今後は、ふり返りの9つのポイントから各自選ぶことができる力をつけていくと良い。
- ・弱い心に打ち勝つには？だけに終わらず、その良さにも触れる。(努力と強い意志の要素が強くなっていった)

研究の柱Ⅱ かかわり合いを活性化させるしかけ

【内容② 本音を引き出すための手立て ～インタビュー形式での交流～】

登場人物の相反する気持ちを自分事として考えながら読み進め、即効性のあるインタビューと問い返しを行うことで、「よしこさんだったら」と「自分だったら」の二つの立場での気持ちを考えることができました。

【事後研より】

- ・インタビューと問い返しによって本音を引き出せた。(心の対比)
- ・座っている児童にもインタビューすることで、消極的な児童も発言しており効果的。
- ・インタビュー形式で子どもたちからでた発言などを主題へ生かす工夫。
- ・インタビューと問い返しは意図をもったつながりになっているか。



研究の柱Ⅲ 個の学びの充実

【内容③ 自己を見つめる場の設定 ～板書とICTを活用した振り返り～】

登場人物の二つの心の対比がわかりやすい板書とつかむで活用したアンケートに戻ることで考えの比較や、振り返りがしやすくなっていました。

【事後研より】

- ・個人—全体—個人で考える時間を作りことで、自分の考えをより深めることができた。
- ・振り返りは◎とセットで答えさせては。(理由があってもよかった)
- ・主題にせまる発問内容の精査。(よしこさんの後悔を取り上げるなど、中心発問についてより深くつなげていくには)

